

みなさんお元気ですか。

ヒノテガとマタガルパに旅にでました。ご覧ください。



4月5日

セマナサンタの連休（1週間）を利用して、ヒノテガ市に旅行した。前回ニカラグアに来た時にヒノテガの隊員にお薦めの観光スポットとして、Pena de la Cruz山があると紹介された。また、道場長もヒノテガは私も行ってみたい街だと言っていたので、この機会を利用してやって来た。この街は、都市のマナグアの北東部に位置して、人口5、5万人で、コーヒーの産地として有名である。

朝5時ごろ家を出発しタクシーでマジョレオにあるバスターミナルに行った。そこでヒノテガ行きの特急バスに乗って、約3時間半かけてヒノテガの街に着いた。バスの乗客は定員の2倍以上で、通路も人で埋まっていた。窓側に座った自分も前席との間隔が狭くて足を延ばすことが出来ず、快適とは到底言えないバスの旅となった。





10 時過ぎにヒノテガの街についた。バスターミナルからホテルまで歩いて行ける距離と分かっていたが、**Google Map** を見ながらバスターミナルから歩いてみたが、方向がさっぱり分からず、近くの店の店員にも聞いた。近くにあってもホテルを知らないらしい。結局タクシーを捕まえて行った。しかし、ホテルまで3分で着いた。ホテルは、2階で、1ベッドルームとシャワーとトイレ、洗面台が一緒になった一畳くらいの空間だった。(因みに一泊38ドル、決して安くない。日本に比べて)暑かったのでクーラーを入れてくれるように管理人に頼んだ。しかし、クーラーのスイッチが入らず1階に部屋替えと言われたので、諦めた。部屋から眺める遠くの山々は素晴らしいかった。私の目指す山もまじかに見られて少しほっとした。明日は、あの山に登ろうと誓った。

ホテルの管理人に、朝食を食べられる店を紹介してもらった。そこは、「Tico」という店だった。



その店に行って、早速 Sara さんに連絡した。一緒に食事をしようとなった。入った店は、非常に雰囲気の良い感じで、料理もおいしかった。マナグアより良かったので驚いた。このヒノテガはコーヒーの産地としても有名なのだが、ここで飲んだコーヒーは美味しかった。それよりチーズケーキの上にある種が気になった。

午後からは、ホテルの周りを散歩した。ホテルから2、3ブロック下がっていくと、教会の屋根が見え始めた。きれいな建物だなと感じながら誘われるようにその屋根のほうに歩いていった。きれいな教会だ。そしてその前には、公園があった。公園内は、暇そうにしている老人や友達と楽しそうに話している若い女の子。さらに小さなスケートボードの練習施設もあった。マナグアでは感じられなかった田舎の純朴は風景を見ていた。古い歴史を感じさせる街、そしてなぜか落ち着いて、心地良さを感じる街だ。

30分置きぐらいに鳴る教会からの鐘の音。教会を中心に、キリスト教徒が居ずいている街だとも感じた。





4月6日

Pena de la cruz の丘に登った。ヒノテガ在住の元ボランティア隊員や合気道の生徒がこの丘に登ることを勧めてくれたので、挑戦してみた。標高 1300mにある十字架を目指して登りはじめた。山麓には墓地が広まっていた。今日はセmanaサンタの日。故郷に帰ってきた人なのか、観光客かは分からないけど登っていく人をちらほら見かけた。予期してないことが起こった。それは、階段だ。こんなに何段も階段があるとは思ってもしなかった。誰も教えてくれなかった。降りてくるときに膝痛にならないか心配しながらゆっくりゆっくり時間をかけて登った。途中で振り向いては谷間に広まる家並みを見て、中腹の樹々や植物、虫の音などを聞きながら歩いていった。同じホテルに泊まっていた客にもばったりあった。マナグア在住との事だった。私もすっかりマナグア人間のようになつてつい話してしまった。十字架のある頂上についた。そこからの眺めは素晴らしいかった。別の山頂に続く峰、ニカラグアで一番高い所に立った。







4月6日

UCA大学の合気道講習で知り合った友人の家を訪問し、家族の皆さんに冷やしそうめんを振る舞った。今までに多くのニカラグア人(ニカ人)を自分の家に招待して、日本料理を振る舞ったことはあるが、ニカ人の家庭に入って日本料理を作るのは初めてだ。ニカ人の台所は一体どのようなになっているのか、以前から非常に興味があった。知人の家族はお母さん、妹さん、そして本人の3人だ。本人はマナグア市で暮らして、あとの二人は、地元で暮らしている。お母さんは薬剤師で自分の家が薬局だった。さて、冷やしそうめんを作るために、台所に入った。台所は4畳くらいの広さで、6人用のテーブル、冷蔵庫、ガス機器、流し台などがあつた。L字型の流し台はコンクリートできていて、台所の角にあり、水道の蛇口があり、その下に水槽があつた。常にその水槽には水が溜まっていた。



水槽の横に調理台があり、食器、野菜などを洗う場合は、水槽からボールで溜めていた水をすくって洗い物などに掛けていた。麺とつゆは持参した。麺のゆで加減や冷やし水で麺をもみ洗いするときは少し緊張した。素麺を器に盛り付け、トマトとキュウリも盛り付けた。別の器には、めんつゆとわさびを少し入れた。

さて、盛り付けは終わった。そうしたら、妹さんがシャワーを終えて食卓にやってきた。そうめんの食べ方を箸ではなくて、フォークを使って説明した。

皆一斉に食べた。「うー」、「おいしい」とほほ笑みながら言ってくれた。料理中は、余り会話もなかったが、一口食べて一気に和んだ感じだった。

お母さんには、少し塩気が足らなかつたらいい。塩が入っている小さな円筒の容器を持ってきて、一つまみ、二つまみと麺つゆや盛り付けのキュウリやトマトに掛けた。



その塩の量の多さに驚いて、目を見張った。血圧が上がりますよ、と私が言ったら、そうね、と言いながらまだ塩気が足りなそうだった。また、お母さんは、麺だけでは少し足りなかつたようで、さらに目の前に置いておいたパンも食べていた。

妹さんとも話をした。彼女もお姉さんと同じ大学だそう。私は合気道を習ったのよ、と言った。それも日本人に、と言った。10年くらい前よ。先生の名前は忘れた。でも確かボランティアで来た人だったと思うよ。10年くらい前となると合気道ボランティア2代目かな、と思って私の Facebook の友人の写真を見せた。まさしくこの人から習ったと言った。この人は、元ニカラグアボランティア隊員で、合気道指導者として2代目で、「武林先生」だった。驚きだった。この家族と合気道で繋がった。本当に不思議だ。そして、早速、Facebook の武林先生にメッセージを送った。驚くだろうな。



4月7日

午前8時をまわった。足首当たりが筋肉痛。昨日の山歩きが効いてきた。でもまずは朝飯だ。町に出た。開いてる店はなし。行き付けのレストランも休みだ。金曜日だけど今日は、どこも休みなんだと感じた。

昨日教会の近くで見つけた別の店に行ってみた。高校生くらいの女性が開店のしたくをしていた。朝食とコーヒーをオーダーした。

出てきた料理は昼飯のようだった。でも思いの外、いい味だったので、驚きだ。流れていた騒々しい音楽も段々と気持ちいい私の気に入りに変わってきた。この店に来て正解だった。チャペルを聞きながら、コーヒーを飲んだ。この街が益々好きになってきた。まずしいけど人々は優しく心暖かい。店の前の通りを歩いて、みんな教会に行く。小綺麗な格好して。こどもたちも。



しかし、突然、10歳くらいの男の子が通りから私の方に手を出しながら、話かけている。彼のスペイン語は理解できないが、様子からしてわかる。お金が欲しいのか。私は美味しい朝食、気に入った風景や街に来た喜びで幸せを感じていた。この少年にお金をあげるべきか。迷った。彼が去った後、少し後悔した。あげれば良かったのか？同時に教会は一体なんのためにあるんだと怒りを感じた。2年ほど前にサラさんの父親もコロナで亡くなられたらしい。墓地には他にもコロナでの死亡という札もあった。教会は、誰を救っているのだろうか。貧困の子供たちを救う慈悲はないのか？教会は富裕層の集まりか。教会は誰も助けないと分かっている人も大勢いると思う。でもなぜ教会に通うのだろうか。



友達に会うには、しばらく時間があつた。また、教会の近くに来た。マンゴが刻まれて詰め込まれたビニール袋を見た。昨日も買った。今日もまた買った。今このマンゴが癖になるほど好きになった。以前は、マンゴは黄色く熟して柔らかくなったものを皮をむいて、そのままガブリついていた。路上でもこのビニール袋に入ったマンゴをよく見かけた。しかし、そのマンゴは黄色く熟したものでなく、青っぽくて美味しうなさそうな思い出しかなかった。しかし、今回、このヒノテガに来てかわった。青っぽいマンゴでも美味しいことが。太ったおばちゃんにこのマンゴ一袋ちょうだいと言ったら、薄紫の液体とタバスコのような辛子とそれに塩をマンゴに掛けてくれた。この薄紫はなんだ。今まで砂糖を掛けていたとズツと思っていたが、塩だったのか。薄紫は、ワインだった。うまい。これはうまい。マンゴを見直した。



4月7日

11時ごろからサラさんの友人の車でマタガルパに連れってもらった。この街はヒノテガよりかなり大きい。標高はヒノテガより低い山に囲まれた谷間の市街地はヒノテガとは比べ物にならない。

サラさんの友人夫妻とマタガルパに住んでいる夫の娘、そして私の5人でピッサを食べた。このピッサの美味しさに驚いた。トッピングは、いつもの具材が敷いているので、別になんとも思わなかったが、一口かぶりついて気づいた。生地の中がぎっしりとチーズが入っている。うまい。ニカラグアに来て、こんなピッサは初めてだ。生地もふんわりとしていて、味があった。ビール、コーラなど飲み物とこのピッサで、5人分で1100コルドバだった。



さて、この後友人夫妻は、娘さんをお母さんの住んでいる家に送っていった。私たちは、公園の近くにあるコーヒー屋さんを覗いてみた。その後、公園を散歩して、教会の前でサラさんの友人夫妻にまた会った。

そして、公園前に停まっていた市内観光バスにのった。サラさんから高い所に行くと言っていたから、きっと教会の建物の最上階にでも行くのかと思っていたが、実は違っていた。観光バスは二階建てで、屋根のないオープンバスだった。バスの二階席に座った。最前列には4個のスピーカがあり、爆音が響いていた。ゆっくりとバスは教会を離れた。特に大したことではないと思ったが、それは、間違いだった。

バスは、電線の下をぎりぎりにくぐっていく。二階席に普通に座っていれば、電線が自分の頭にあたり感電死する。あぶない。あぶない。



今度は電線ではなく、横断幕だ。頭に当たってしまう。しゃがむしかない。こんな経験は今までにない。スリル一杯の乗り物だ。まるでジェットコースターだ。誰が最初に思いついたのだろうか。日本では絶対にありえない。本当に危険だ。後でサラさんから聞いたんだけど、本当に電線に当たって怪我をした人がいるらしい。

段々とバスは登っていく。今度は電線ではなく、道路の両側にある樹木だ。その枝に注意しないと、顔に当たっていたい。また、道路も舗装ではなく、デコボコ道。ひやひやもんだ。20分ほどで、山の頂上に着いた。そこには、展望台がありマタガルパの街全体を眼下に見ることができた。この街もヒノテガと同じように、谷間にできた街だ。いくつも教会が見える。山麓には墓地も見える。遠くの山頂には、ヒノテガと同じように十字架が建っていた。今度は、この街をゆっくり歩いてみたい。



4月8日、

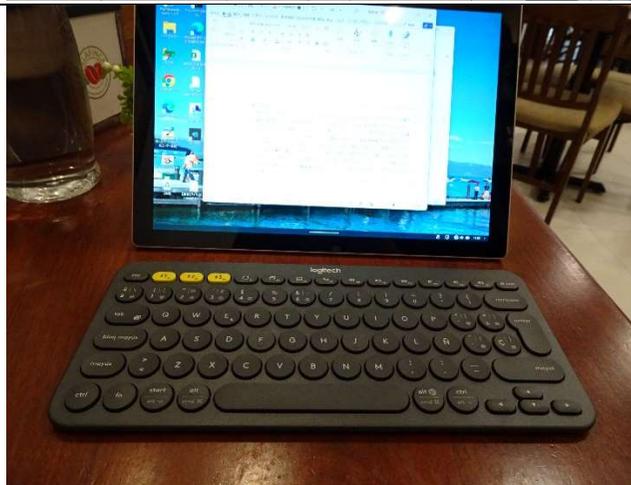
今日は、マナグアに戻る。その前にサラさんの家に寄った。バスは1時間に一本とこのこと。10時に出発と決めた。バスターミナルに10時前に着いた。マナグア行きのバスは、マタガルパ経由のバスが1時間に1本ずつ出ていることが分かった。でもマタガルパでバスを乗り換えなければならないらしい。面倒だ。マナグア行きのバスは、12時までないことが分かった。ターミナルで待つことにした。

今回の旅は、サラさんの家を訪問して良かった。そうでなければマタガルパでのあの楽しかった観光バスには乗れなかつただろう。日本に帰る前にもう一度マタガルパに来たい。マタガルパには、きっと新しい驚きがあるはずだ。



4月16日

家からバスに乗って、メトロセントロというショッピングモールに行った。日曜日の朝、9時ごろバスは、平日に比べてかなり空いている。15分位でモールについた。いくつかの店は開いていた。いつも使っているコンピューターのキーボードが壊れてしまったので、替わりのキーボードを買うつもりで、Facebookで見つけた店に行った。このモールにその店はあることが分かっているので探してみた。二階建てのこのモールには、100店舗ほどありそうだ。1階、2階とくまなく歩いて探してみたが、見つからなかった。ガードマンに聞いたら、そのような店はないとのこと。その他の店もいろいろと尋ねてみたが、Surfaceのノートパソコンに合うキーボードが見つからなかった。



ほぼ諦めていたが、最後はかなり広いフロアに家具、家電、パソコンなどが展示している店を見つけた。数種類のキーボードが展示してあるコーナーに来たが、店員がいない。お客は私だけだった。フロアの隅っこにあるガラス張りの個室に一人の女性がいたので、ここで働いているのですか、と尋ねた。そしたら、別の店員がやってきて対応してくれた。彼はスペイン語しか話せないが、展示されているキーボードを薦めてくれた。彼は、親切にも商品のパッケージを開いて、キーボードを私のパソコンと接続してくれて、本当に入力できるか試してくれた。キーボードのキーは、スペイン語対応なので、Ñのような文字キーになっている。しかし、ちゃんと日本語入力ができる。値段は、1609コルドバであった。日本円では、6千円くらいだ。日本で買うより高いかもしれないが、必要な品物なので買った。以外な店で手にいることができて、チョッと満足。